

01	名古屋	名古屋市立千種小学校	タカハシ カナ 名前 高 橋 香 那
分科会番号	7	分科会名	美術教育

1 研究題目 自分らしく 自信まんまん！！ ～つながり合って 認め合う造形活動を通して～

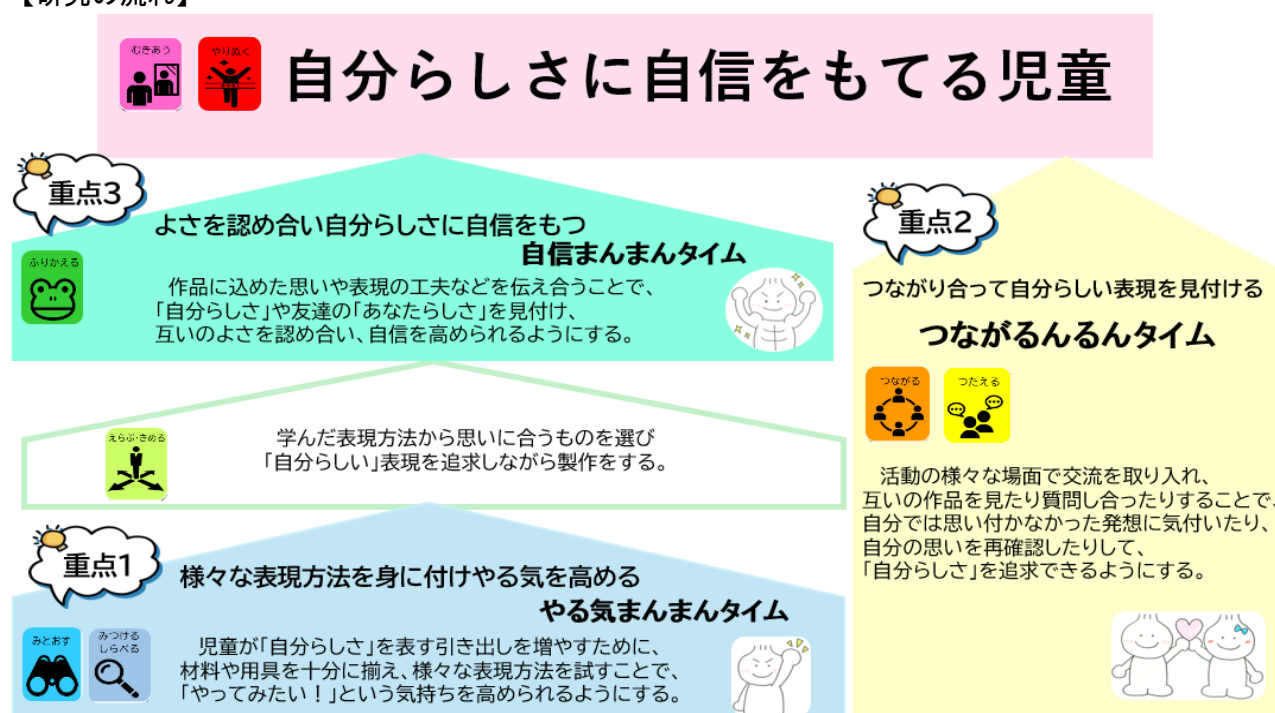
2 研究のねらい

一人一人が自分について理解を深め、未来に向けて必要な力を伸ばしていくことを目指し、名古屋市ではキャリア教育が本格実施となった。年度当初に前任校で行った「キャリア教育アンケート」によると、私が受け持った3年2組は、人間関係形成・社会形成能力の中の他者に働きかける力が低いという結果が出た。普段の生活や授業を振り返ってみると、確かに、自分で解決することにとどまり、それ以上はつながろうとしなかったり、自分の考えに自信がもてず、伝えることをためらったりする児童の姿が見られた。図画工作の時間においても、「それどうやって描いたの」と友達の表現に興味をもつ児童に対して「真似しないで」と返したり、鑑賞の時間に自分の描いた絵を裏返してしまったりする姿があった。

私は、本来「自分らしさ」を最大限に表現できることが図画工作科のよさだと考えている。図画工作科において「自分らしさ」を追究するためには、多様な表現を知り、友達と交流し、作品とじっくり向き合うことが大切である。それらを重点におき、キャリア教育の視点を取り入れて授業を進めることで、「この活動を通して自分にはこんな力が身に付いた」と児童自身が意識できるようにしていく。そうすることで、児童が他者と関わることのよさに気づき、自分らしく表現する喜びを味わってほしいと考えた。図画工作の技能を向上させるのみならず、互いを認め合いながら自分らしさに自信をもてる児童を育てたい。

以下は、指導の重点と育成したい力を示した研究の流れである。

【研究の流れ】



3 研究の内容（対象：第3学年 21名）

(1) 題材について

「絵のぐ+水+ふで=いいかんじ！」（4時間完了）

初めて扱う水彩絵の具の基本的な使い方を知り、絵の具を混ぜて新しい色をつくったり、水の量や筆遣いを考えたりしながら、それらを組み合わせて表現する題材である。一人一人が「自分らしい」色を見付け、互いの「あなたらしさ」を感じられるように、共同作品を製作して学級目標の掲示物を完成させることを目指した。

(2) 活動の様子

① 導入 自分らしい色を見付けよう！

【重点1】 様々な表現方法を身に付けやる気を高める「やる気まんまん タイム」



これまで扱ってきたパスなどの画材と異なり、水彩絵の具からは無数の色がつくれることを実感するために、赤・黄・青・白・黒の5色を混色し、つくった色にオリジナルの名前を付ける活動を行った。

「やる気まんまんシート」を用意して、21通りの色をつくることを知らせると、児童は興味津々で活動に取り組み、「5色からこんなにもたくさんの色ができるなんて思わなかった」「白を混ぜると明るくなるんだ」などと驚きの声を上げていた。



【やる気まんまんシート】

混色の仕方や道具の扱いに迷ったときのために、塗り方を説明した動画をQRコードにしてまとめた「やる気まんまん QR シート」をグループに1枚ずつ配っておいた。隣の席の友達と一緒に動画を見ながら取り組む児童や、分からないところを何度も確認しながら塗る児童など、それぞれが必要なときに、自分に合った方法で塗り方を選択していた。

最後に、つくった色に名前を付けたりお気に入りの色に印を付けさせたりすると、児童は、「『元気もりもりオレンジ色』ができたよ！」「つくった色は、全部好き」と、それぞれが自分のお気に入りを見付け、「もっと違う色もつくってみたい」と製作への意欲を高めていた。



【重点2】 つながり合って自分らしい表現を見つける「つながるんるん タイム」

教室の中央に「つながるんるん広場」と称したスペースを作り、困ったことや相談したいことがあった際にはいつでも集まってよいことを伝えた。すると、「つながるんるん広場」に集まり、「この色にどんな名前を付けるといいかな」と相談しながらオリジナルの名前を考えたり、「この色はここで混ぜるといいよ」と友達にパレットの使い方を教えたりする児童の姿が見られた。

活動の途中で「友達がつくった色もつくってみたい」という声があったので、自分がつくった



【左：つながるんるんシート 右：交流する児童】

色とつくり方を書くことのできる「つながるんるんシート」を用意し、取り組んでもよいことを伝えた。すると、児童は進んで友達の作った色を再現することに取り組み、「僕も高級たまご色ができたよ」「みんな同じ色を混ぜているのに、違う色になるのが面白い」など、つながり合ったことで新しい気づきを得ることができていた。

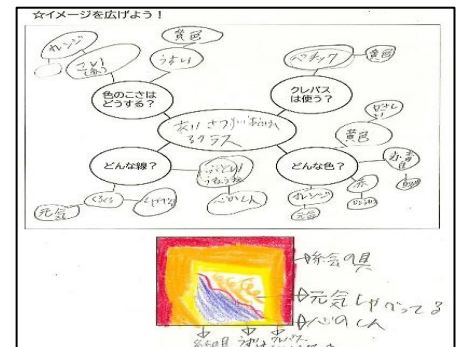
② 製作 22color ～1人ひとりの思いを大切に～

クラス会議で目指す学級について話し合ったところ、図画工作での経験が子どもたちの心に残っていたようで、「22color ～1人ひとりの思いを大切に～」という学級目標が誕生した。「一人ひとりがどんな学級にしたいのかを描き表し、パレットみたいに貼って飾りたい」という児童の声をきっかけに、自分らしい色や形を追究した「22カード」の製作が始まった。

【重点1】 様々な表現方法を身に付けやる気を高める「やる気まんまん タイム」



製作前に、自分の思いを「やる気まんまんシート」を使って、ウェビングマップに整理した。児童は、『挨拶があふれるクラス』を目指すために、赤やオレンジを濃く塗りたい
『みんなのよさが重なり合うクラス』を目指すために、いろいろな色や線を使いたい など、表したい思いを明確にして、これまでの活動で学んだことを生かして形や色を考えていた。年度当初は見栄えを気にしていた児童も、思いを表すことが重要だと気づき、様々な表現の中からどれを選ぶか楽しそうに考える姿が見られた。



【やる気まんまんシート】

【重点2】 つながり合って自分らしい表現を見つける「つながるんるん タイム」



製作の途中で、自由に作品を見合ったり、思いを表現するために工夫したことや思い通りにいなくて困っていることなどを話し合ったりする「つながるんるんタイム」を取り入れた。「もう少し明るい色にしたいけど、どうするといいかな？」と気になることを質問したり、「青色を多めにして白を加えてみたら？」とアドバイスしたりして、どの児童も積極的に関わり合う様子が見られた。



【つながるんるんタイム】

また、友達に「これどうやって描いたの」と質問したり、「この組み合わせがいいね」と表現のよさを称賛したりする姿も多く見られ、他者への関心が高まっていることや、学級の中に互いを認め合う雰囲気や育っていることが感じられた。

どの児童も、友達との関わりの中から自分の思いや表現を見つめ直し、自分の思いにより近付けるために、いろいろな組み合わせを試してみたり、表現したい色を懸命につくったりして、カードを何枚もつくっていた。その中から、自分の思いが一番表現できている1枚を好きな形に切り、22枚の「22カード」が完成した。



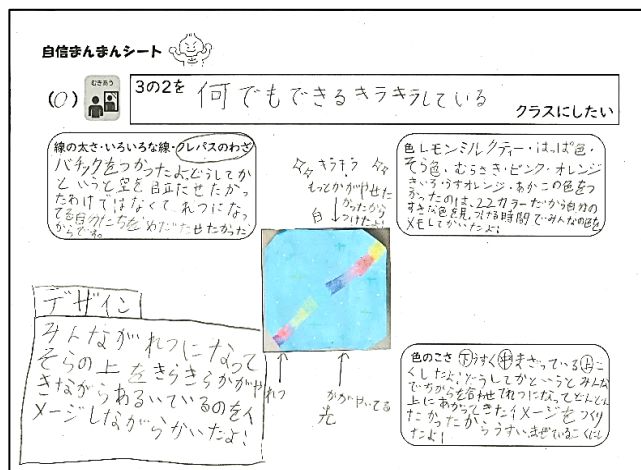
【話し合い前(左) 話し合い後(右) の表現の変容】

【重点3】 よさを認め合い自分らしさに自信をもつ「自信まんまん タイム」



自分が納得いく作品が完成すると、児童は「自信まんまんカード」に、作品に込めた思いや表現の工夫をまとめた。多くの児童がこちらが驚くほどびっしりと思いを書いて、「みんなで力を合わせてきたイメージをつくりたかったから、薄い色を混ぜてだんだん濃くしたよ」など、強い思いが伝わる言葉が並んでいた。振り返りとして「自信まんまん度」を3段階で自己評価させたところ、学級21人全員が、一番上の「自信まんまん」と回答した。

活動の終わりには、「自信まんまんシート」に書いたことを、3～4人のグループになり一人ずつ発表する「自信まんまんタイム」を行った。一人の発表が終わるごとに、その友達のよさを書き、感想を伝え合った。「ここはなんでこの色にしたの？」などと質問をし合いながら、「なるほどね！すごく思いが表れているね」「この技を使う発想がすごいね」と互いの表現を認め合う姿が見られた。どの児童も「もっと話したい」と、前のめりになりながら、22カードに込めた思いを自信をもって友達に伝えることができた。



【自信まんまんシート】

4 考察

成果(○)課題(●)

- 「やる気まんまんタイム」で十分に構想を練ったり、様々な表現方法を試したりさせたことで、児童の表現の幅が広がり、活動への意欲を高めることができた。
- 「つながるんるんタイム」を様々な場面で取り入れ交流をさせたり、「自信まんまんタイム」で互いの表現のよさを認め合ったりさせたことで、児童が自分らしさに自信をもつことができた。
- キャリア教育の視点を取り入れ、育成したい力を意識させたことで、図画工作の時間にとどまらず、学級全体で互いを認め合う雰囲気が育った。
- キャリア教育で育成したい力を児童が意識して活動に取り組むことはできたが、身に付いた力を自覚するまでには至らなかった。今後は、自分でめあてを立て、身に付いた力を振り返る機会を設定したい。

5 研究のまとめ

できあがった学級目標を見て、児童からは「みんなの思いがつまっているね」「このクラスの宝物だね」といった言葉が聞かれた。この言葉から、私は、児童自身がつながり合うことのよさに気づき、互いを認め合う空間をつくることができた実感した。

本研究を通して、児童は「自分らしさ」を表現することの喜びや楽しさを味わい、自信を高めることができた。また、友達それぞれの「あなたらしさ」にも気づき、それを知ったり認め合ったりしたいという気持ちも高まった。今後も、児童が、自分の思いを表現するために「つながり合いたい」と思えるような授業実践に取り組み、児童が自分らしさを最大限に表現することができるようにしていきたい。



【完成した学級目標】